

分種表にでてゐる種類は401種である。

〔記載〕ここでは、目・科・属及び種の検索をとり入れ、500以上の記載が行われている。取扱つた数は前記した如く401種が権威を以て報告されており、そしてこれらの変種及び品種が134つけ加へられている。

終りに改訂版(1957)と初版(1937)の両方を照合し、海藻の取扱い方の差異の主なものを拾つてみると、先ず1937年版では緑藻門、褐藻門、紅藻門の3門であつたが、1957年版では緑藻と褐藻の間にXanthophyceae門を設けたこと、即ち本改訂版では4門を取扱つてゐることを挙げなければならない。

次に改訂版と初版を順次みて行くと、改訂版にのみ新しくみられる名前と初版にあつたが改訂版にみられなくなつた名前があるのでこれを拾つてみた。新たにみられる綱名はHeterosiphonales (Xanthophyceae)で、みられなくなつた綱名はTilopteridales (褐藻類)である。新たにみられる科名はChaetopeltidaceae, Gomontiaceae (以上緑藻類); Acrothricaceae, Punctariaceae, Sargassaceae (以上褐藻類); Acrochaetiaceae, Furcellariaceae (以上紅藻類)。みられなくなつた科名はTrentepohliaceae (緑藻類); Asperococcaceae (褐藻類); Chantransiaceae (紅藻類)。亦新たにみられる属名では、Chlorococcum, Ectochaete, Diplochaete, Urospora (以上緑藻類); Giffordia, Eudesme, Sphaerotrichia, Stiloptera (以上褐藻類); Furcellaria, Ptilota (以上紅藻類)。そしてみられなくなつた属名はHormiscia (緑藻類); Aegira, Mesogloia, Phloeospora, Gobia, Phyllaria (以上褐藻類); Colaconema (紅藻類)等である。種名、変種名、品種名等についてはこれを省略する。亦科・属のシノニウムも省略する。褐藻類のStilophoraceaeは初版ではPunctarialesの中にあつたが、改訂版ではChordarialesの中に移つてゐる。

(舟橋説往——北海道大学理学部植物学教室)

学 会 録 事

藻類関係者の集まり

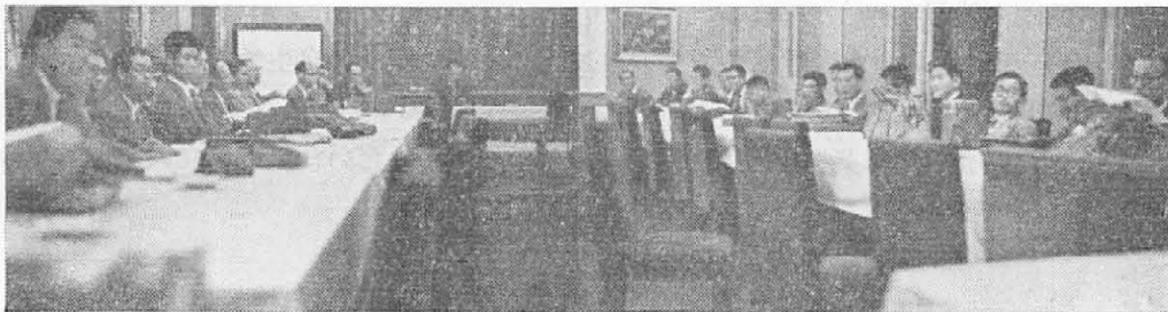
昭和32年度日本水産学会秋季大会第1日の10月9日午後6時から、函館市湯川町有鄰荘に於て、藻類関係者の親睦を兼ねて談話会を開催した。出席者は20名で時田郎博士の挨拶の後、瀬川宗吉博士から「琉球の話」と題する肩の凝らない内容豊かな、琉球の旅の思い出話などあり、各種の趣味的なコレクションを回覧し乍ら、彼地の最近の情勢と、琉球の藻類の生態の輪廓、特にその水平並びに垂直分布に就ての報告があつてから、和やかな雰囲気の中に会食に移つた。

談笑の間に食事を摂り乍ら、順次自己紹介を行い、多くの思い出話や活潑な希望、建設的な意見など出て、名残りのつきないままに午後9時過ぎ散会した。

函館では昭和27年9月26日に当時の日本水産学会秋季大会に出席した数名の有志

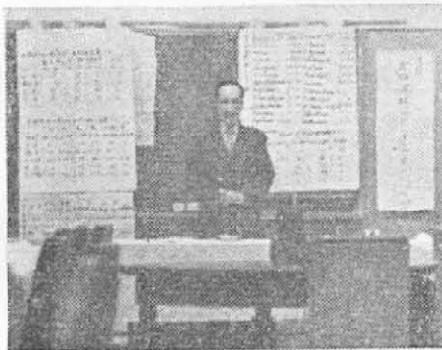
が、景福丸のサロンで藻類学会の発会に先立つて、会則の草案について話し合いをしてから、正に5年を経過した訳であるが、その間に会員数が287名に達し、当初の目標の300名に今一步という状態にある事は、本会の急速な発展の跡を如実に示すものであり、洵に喜ばしいことである。尙、今回の集まりは、北海道漁業協同組合連合会と渡島支庁水産課の特別な御後援によつて開催する事が出来たもので感謝に堪えない。(近江彦栄記)

日本藻類学会第5回総会記事



日本藻類学会第5回総会状況(上)

並びに講演会(左)



本会第5回総会は去る10月12日午後6時過ぎより約3時間近くにわたり、東京都立大学理学部会議室で開催された。当日は日本植物学会大会第一日目のこととて、出席会員は45名に達し、その他数名の来聴者があつて今までにない盛会となつた。しかし、折悪しく山田会長は9月中旬来フランスに出張中で、総会に間に合う様に帰国する予定であつたが、飛行機の便の都合で出席不可能になり、会長不在のままに会合が行われた。次に当日の様子を報告する。

1. 開会宣言： 中村幹事。
2. 議長選出： 例年の様に地元会員中より須藤俊造幹事を選出した。
3. 庶務、会計報告： さきに本誌第5巻第1号に同封した31年度報告に基づいて、川嶋幹事(庶務)及び舟橋幹事(会計)より詳細な報告と質疑に対する応答があつた。なお、この報告の中で10月7日現在の会員数は287名に達していることが明かにされた。
4. 会長選出： 本年は会長改選の年にあたつて居たが、前述の様に山田会長が不在のために、3,4の会員から質問及び意見が述べられた。しかし、結局前回までと同様に投票をもつて新会長を選出することになつた。幹事の提案により夕食を摂りながら投票が行われた。その結果、山田幸男前会長が多数票をもつて選挙された。斯くして同会長の帰国後、幹事よりこの結果を報告することを約して新会長の選出を終つた。
5. その他： 自由討議に於いて主として、新崎氏、瀬木氏等を中心に数名の会員

の間で、藻類紙上に国内で発表される藻類関係論文のリスト（出来得れば摘要も）を掲載し、又上記両氏が個人的に外部より依頼されているこれらの仕事を学会に於いて行うことについて意見や希望が述べられた。この話合いの中からは結論は出されなかつたが、今後の重要な課題として検討したいと思う。

6. 閉会宣言： 中村幹事。

講演

渡辺篤氏（東大応微研） 「微細藻類について」

カラースライド映写

岡田喜一氏（長崎大水産学部）「フジマリモとオキチモツクの自生地」

終了は9時20分頃となつた。なお、今回の総会の開催について、特に快適な会場を用意して下された会員加崎英男氏、大房剛氏及びお手伝をいただいた東京都立大学理学部の学生諸君に厚く御礼を申し上げる。

総会出席会員

秋山 優	新崎 盛敏	深瀬 敏	福島 博
舟橋 説往	古谷 庫造	平野 実	広瀬 弘幸
生駒 義博	稻垣 貫一	入来 義彦	岩城 住江
香村 真徳	加崎 英男	川嶋 昭二	北見 秀夫
北野 一彦	小林 艶子	丸山 晃	松浦 正郎
御船 政明	内藤 詳三	中村 義輝	中沢 信午
野田 光蔵	野沢 洽治	大房 剛	岡田 喜一
沢田 武男	瀬川 宗吉	瀬木 紀男	志平 依久子
清水 巖	園田 幸朗	末松 四郎	須藤 俊造
須賀 瑛文	田中 剛	谷口 森俊	建 武
千原 光雄	坪 由宏	梅崎 勇	渡辺 篤
吉田 忠生			(ABC 順)

本会会員松浦茂寿氏は去る昭和32年9月20日、病気のため逝去されました。ここに謹んで哀悼の意を表します。

日本藻類学会